



THE BAJ NEWS

日本ボストン会 | Boston Association of Japan | 会報 : 58号

レクチャーシリーズ

Youtube動画配信

レクチャーシリーズ第2回の
Youtube動画配信をいたし
ます。
右のボタンをクリックして
ご覧ください。



尚、このYoutube動画は、日
本ボストン会会員並びにレク
チャー参加者のみが閲覧でき
るように限定公開になっていま
す。
URLの拡散並びに部外者への提
供は控えて頂けますよう、よろ
しくお願いいたします。

ご質問等がありましたら、
右のボタンからご連絡くだ
さい。



今後のイベント

コロナ禍でいつものイベントの
開催が見通せませんが、リモ
ートでのレクチャーシリーズ第3回
や秋には映画会が検討されてい
ます。具体案がまとまった時点
でメールでご案内します。

日本ボストン会HP



<http://www.j-boston.org/>

日本ボストン会事務局



〒169-0051 東京都新宿区西早稲
2-14-1 (株)日本レーザー内



幹事会の若返り

土居 陽夫

前々会長の藤盛さんが始められ前幹事の近藤さんが骨格
を造られた幹事会の若返りが、昨年秋の幹事会で決まり11
月の総会に報告されました。

新幹事会は次期会長候補の細田副会長、事務局の別府さ
ん、会計の滝沢さん、監査の佐藤さん、ボストン在住で毎
回会報に「ボストン便り」を連載してくれている八代さん、
レクチャーシリーズを担当して下さっている岩田さんご夫
妻、HPやインターネット関連を担当してくれている吉田
(貴幸)さんと北原さん、それに新しく幹事になってくれた
ボストン在住の若尾さんと、会長任期が1年弱となりました
土居で構成させて頂いています。幹事として会の活動に参加
したいという若手の方は是非事務局にご連絡ください。自
薦・他薦、大歓迎です。

新たな日本ボストン会に歩みを進めてゆきたいと思いま
すので、よろしくご支援をお願いします。

シニア会スタート

藤盛 紀明

日本ボストン会の設立は平成4年（1992）10月30日、本年2022年で創立30年になる。設立の会（当時は準備委員会と称していた）は大岡山の東工大100年記念館で開催され、出席者名簿には設立作業を一緒に行った土居夫妻など26家族が記載されている。私が日本に帰国する際、現地ボストン日本人会吉野会長から、日本から現地を支援するための支部を設立して欲しいと言う依頼によったものであった。会の規約案には設立の目的を「わが国と歴史的にも関係の深いニューイングランド地方との交流を促進し、日米友好の増進に寄与すること」と記してあり、依頼された日本支部ではなく、独立した「日本ボストン会」が設立された。

岩田夫妻が企画した「日本ボストン会レクチャーシリーズ第2回」において、会の設立当初の活動を報告したが、会則案にある「ニューイングランド地方との交流」そのものであった。設立直後に結成された「レadies会」の活躍はめざましくニューイングランドで活躍している日本人音楽家を招いての演奏会、更には関夫妻によるボストン・ポップスの演奏会など文化交流が活発に行われた。更に、レadies会のボストンを訪問してのボストン日本人学校創立20周年への寄付、日露戦争のポーツマス条約ゆかりのホテル保存基金の寄付、ボストンの先生のホームステイ受け入れなどなど活発な交流活動だった。

会設立10年後の2012年、会の会員家族数は179となったが、WG活動には「ニューイングランド地方との交流」に関するものは皆無で、会員間交流が全てであった。設立当初から幹事を継続されている方が多いが、高齢化が進み幹事会への出席もままならなくなってきた。そこで会の本来の目的である「ニューイングランド地方との交流」を再起動させるために幹事を一新することとした。従来幹事会に参加していたメンバー（会の顧問を含む）は、「シニア会」を設置し、従来通りの友好・交流・歓談を末永く続けることにした。

幹事に就任して

若尾 美絵

この度、副会長の細田満和子さんからお誘い頂き、幹事会に入りました若尾美絵です。
ボストン（チェスナットヒル）在住16年目です。

バブル真盛りの日本在住時は、JAL国際線客室乗務員として、世界中を飛び回っていました。現在は米系航空会社勤務の傍ら、ボストン響及びボストン・ポップスオーケストラでオーボエ奏者を務める夫と、ヴァイオリニストとして独り立ち一歩手前の15才の娘の音楽活動のサポートに熱中の日々です。私自身も大学ではピアノ演奏専攻でしたので、家族で室内楽を演奏することもあります。

2010年の音楽の会に、夫の若尾圭介と娘の若尾圭良（当時4才）が出演させて頂いた事があります。関直彦さん、尚子さんご夫妻のサロンにて、コンサートと食事会が開催され、温かく盛況な集まりに、日本ボストン会には、大変良い印象を持っておりました。

良質な音楽の会を続けていらっしゃる関さんご夫妻の活動を継続しながら、必要に応じて在日、在米演奏家のご紹介、また、ボストンやアメリカの音楽界を主とした芸術関連のご報告などが出来ればと思っています。

何か知りたい情報などご希望がございましたら、事務局までお寄せください。

会員の皆様との交流を、とても楽しみにしております。どうぞ宜しくお願いいたします。

WG活動報告

総会

土居 陽夫

総会はコロナの第5波と第6波の合間で感染状況が落ち着いていた昨年11月16日（火）の午後6時半からNEC芝倶楽部で開催されました。京都からのジャメンツさんご夫妻の他21名が会場に集まれ、2名がテレビ会議で参加される総会としては初めてのハイブリッドでの開催となりました。幹事会の若返りや会計の報告がありそれぞれ承認されました。



レクチャーシリーズ

岩田 衛・加奈子

レクチャーシリーズ第2回は師走の忙しい中12月18日に行われました。講師は日本ボストン会の元会長で、会の創立に多大な貢献をされた藤盛紀明氏、題目は「日本ボストン会の成り立ち」でした。

日本ボストン会は当時のボストン日本人会の要望を踏まえて設立され、2022年には会創立30周年となります。

当初は設立メンバーも働き盛りであったし、また、帰国したばかりの方々が多かったので、ボストンとの交流、日本におけるボストン探し等、ボストンをキーワードとした活発な活動が成されていました。歴代会長がご尽力された様子などもよく分かりました。

月日の経過と共に、日本ボストン会の活動もボストンとの直接的な繋がりよりも、会員同士の文化的な活動、音楽、美術、伝統芸能、旅行、ゴルフ等を楽しむ集まりが多くなっていきました。藤盛講師は、創立時のメンバーはシニアとして道を譲り、現役世代の方々が今のボストンとの強い交流を持てる会になって欲しいと考えられておられるようです。

今後のレクチャーシリーズが藤盛講師の熱い願望、そして会員皆様のご期待に添う活動の一つとしてお役に立てれば良いなと思っております。

WG活動予定

レクチャーシリーズ第3回

岩田 衛・加奈子

第3回は三好彰さんによる「ボストン日本人学生会を飾る人々」を3月19日午前10時からZoomでの開催を予定しています。追って詳細のご案内をしますので、奮ってご参加ください。

日本ボストン会 第3回レクチャー 2022年3月19日(土)午前10時開始

ボストン日本人学生会を飾る人々

- ・ ボストン地区で学んだ学生の交流活動を記したノートがある。
- ・ 1908学年度から始まり、最後は1953学年度である。
- ・ 米国の大学ごとの日本人学生会は各地にあった。
- ・ 大学の垣根を越えたボストン地区の活動は注目に値する。
- ・ 在留邦人や親日アメリカ人が、この学生の活動を支えた。
- ・ 記録に残っている日本人・日系人は700人弱であり、アメリカ人は190人である。
- ・ 日本ボストン会で2005年から数年かけて調査した。
- ・ コンタクトしてきた関係者からいただいた写真をもとに活動の一端を紹介する。



美術と歴史の会

酒井 一郎、三好 彰

本年5月中旬以降に、三島に所在する”クレマチスの丘”、”ビュッフェ美術館”での美術鑑賞を予定しています。

コロナで新規感染が拡大した場合には、中止とします。詳細内容は催行1か月前に案内の予定。

ハイキングと紅葉狩りの会

中埜 岩男

ハイキングと紅葉狩りの会としては、オミクロン株の蔓延と終息が見通せない様子見です。可能ならば、5～6月ごろに深大寺の参拝と散策を検討したいと思っています。

小江戸佐原の舟めぐりとあやめ祭り（嫁入り舟と郷土芸能）と、時間があれば伊能忠敬記念館と酒蔵見学なども訪れたいと思います。

お花見の会

生田 英機、小野 田勝洋

コロナの感染者数はまだ高止まりを続けています。大事をとって今年のお花見は中止し、来年へ順延としたいと思います。来年が穏やかな年でありますように。

音楽の会

関 直彦・尚子

音楽の会は、今の状況から依然として予定が立ちません。

ボストン・ポップス・エスプラナード・オーケストラが今月、日本で公演をする話がありましたが、残念ながらオミクロン株の水際対策で、訪日できなくなりました。パンデミック騒ぎがなければ、ボストン・ポップスの有志演奏家が当会のために演奏してくれる申し出もあったのですが・・・。

ゴルフの会

近藤 宣之

コロナ禍様子見です。開催できるようになれば、あらためてご案内します。

シニア会

藤盛 紀明

リアルでのイベントと会食を考えているのでコロナの状況を見て決めます。

ボストンと私 - ボストンに20年滞在して

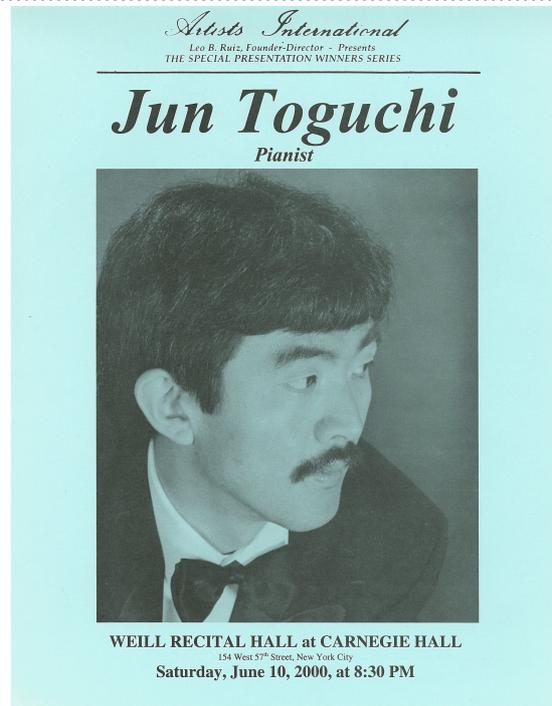
戸口 純

1992年9月に、ニューイングランド音楽院の大学院（ピアノと音楽理論）に留学してから、ボストンには20年以上住みました。3年ほどかけて修士号とディプロマをとり、またそれからジャズやポピュラーの作曲などのクラスがあるバークリー音楽院にも在籍し、そのあとは音楽家のヴィザを得て15年以上働きました。学生時代から伴奏や音楽のいろいろな仕事を探してやりましたが、労働ヴィザがないとどうしようもないので、3年ごとに更新が必要なアーティスト・ヴィザを数回はとって、作曲、演奏をしつつ、教えました。ボストン・バレエを始めとするバレエ学校のピアノ伴奏も随分長くやったものです。

住居は、ボストン市内のシンフォニー・ホールの近くから、やがてジャマイカ・プレーン、それから車を持ってウェスト・ログズベリーに移りました。そこは一軒家で、ピアノが自由に弾けるのは大変ありがたかったです。階段が43段ほどあり、大雪の際の掃除など苦労しましたが、いい思い出です。知り合いから借り、家賃は1000ドルもしませんでした。

しかし一般的なことでいえば、1992年ボストンに着いてあわてて探したヘメンウェイ・ストリートのアパートは月550ドルだったはず。それからどれだけ家賃が上がったのでしょうか。物価の平均上昇率と比べて、不動産と大学の学費ははるかに上がったような印象を持っています。

よくお世話になっていた画家の麻生花児氏が持っていたスタジオはシンフォニー・ホールから30秒のところでしたが、そこを70年代に買った（あるいは借りたか）ということ。その頃はその区域もあまり安全ではなかったのです。安かったそうですが、数十年してそこらの建物を持っていることはミリオネアーをずっと超えているということになりますね。



音楽家としては、頻繁に演奏会に出て、またボストン周辺の学校のお手伝いをしたり、小さめのオーケストラと仕事をしたり、自由でマイペースの生活を送っていました。2003年と2007年には、ボストンに

住んでいたことで、かつて同じまちに住んでいた岡倉天心が明治時代に書いた英語台本 "The White Fox" に作曲するという仕事を日本からいただきました（日本語で「白狐」、木下順二さんなどの翻訳があります）。これは実は、3回ほど上演されたあとも、まだ自分の中で続いているプロジェクトです。



私は、50歳になって日本に帰国しましたが、これからボストン時代に習得したものを開花させないといけないと思っています。ボストン流の音楽のよさとは、ジャズのチック・コリアさんが言ったように、ジャンルを問わずいい音楽は受け入れる気風で、そのクロスオーバーした音楽のことをギュンター・シュラーさんは the Third Stream と呼びました。在米中、ボストンは小さいところだから、活躍したいならニューヨークや西海岸に行ったほうが良いと言ってくれた人もいましたが、文化的で心地よい大きさを保っているボストン都市圏から離れようと思いませんでした。学問、研究においてもボストン周辺に世界の優れた人が集まっているのは（そこだけではないにせよ）事実だと思います。ベルリンにベルリナー・ルフトという風が吹いているなら、ボストンにもボストンらしい爽やかな風が吹いていて、それはこれからも様々な分野の新しい創造を後押しすることでしょう。

ボストンだより - 9 February 19, 2022

八代 江津子

ボストンではパンデミックも現在はピークアウトを迎え、ここ一週間の平均感染者数は1800名ほど。普段の生活への道が見えてきているようです。入院患者も現在1000人を切りました。規制もかなり緩み、コンサートなども徐々に開かれています。マスクの規制も今月一杯となりました。

先日訪れたニューヨークではレストラン、ギフトショップなどへの入店には、ワクチン接種証明とIDの提出が義務付けられていました。コロナの簡易検査場の数は前回半年前に訪れた時期よりも多く見受けられましたが受けている人を見かけることはありませんでした。

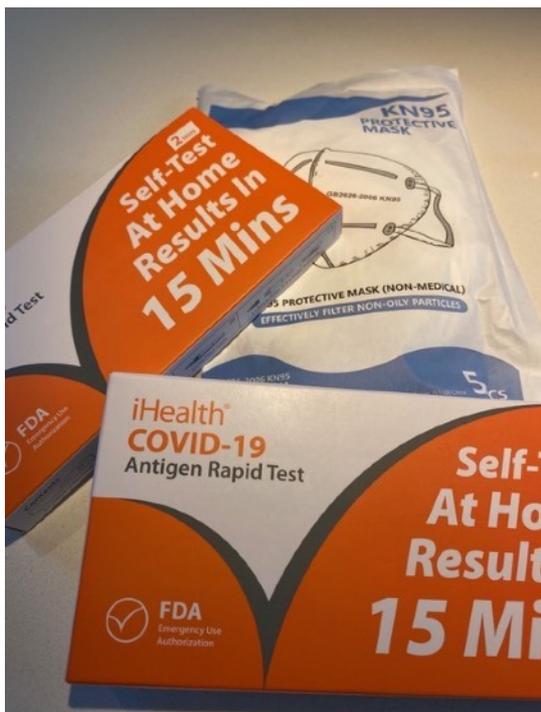
ボストンでは州の配慮でマスク（N95）が配布され着用を推奨されていますが、一般規制は3月から解かれます。（一部公共機関にては着用義務あり）またコロナのテストキットが各家庭に毎週2セット配られるという気遣いです。このお陰で友人と会食の前には、テストで確認するという生活スタイルが出来ています。そういう使い方がいいのかどうかは疑問ではあり



ますが、少

なくとも経済と生活精神面には役立っています。カナダ、トロントでは通常化への舵切りがされた様子、テスト自体も必要が無いというお触れに、「感染した気がするならば5日ほど家に居てほしい」という要請のみ。重傷者数が少ないという現実からでしょうか、トロントのワクチン接種率80%（Full）という高さ故でしょうか。アメリカ全土ではワクチン接種率64%（Full）、ボストンでは77%（Full）です。日本は79%です。（2月17日現在）

この閉塞感に旅に出たい気持ちに、ウェブの旅行マップを紐解いてみました。東欧、アジア諸国は訪れることへの規制が厳しく、隔離期間も長期。ヨーロッパ、アメリカ大陸においてはほぼ規制無



し。メキシコに於いては、入国時コロナテストの必要も無く、またワクチン接種の必要も無い状況に、徐々に旅への意欲が高まるアメリカの友人の多くはバケーションに出かけています。日本人の勤勉さと欧米人の鷹揚さに行動の違いが大きく見えます。私は？と迷う日々ですがアメリカ文化+日本人DNAの夫とバケッリストの一つでもあるシロナガスクジラ、マッコウクジラを見るためメキシコに滞在しています。パリからの大学教授の一家と知り合い、ともに過ごす日々には世界の温度感の違いを感じているところです。一週間程で帰国予定ですが、アメリカ入国には現時点で隔離はありません。帰国搭乗時に簡易テストでの陰性証明が必要です。空港にての検査は予約の必要も無く25ドル程度、15分で終了するという事でした。バケーション等は賛否両論だとは思いますが長期に渡るパンデミックには、経済や生活、精神のバランスを上手く保つ事が必要になってくると感じる今日このごろです。